

## 防災教育 広がる取り組み

### 東日本大震災が契機

東日本大震災をきっかけに、防災教育への関心が高まっている。岩手県釜石市では、大震災の津波で小中学生が率先して高台に避難。犠牲の少なさから「釜石の奇跡」として注目された。

同市では群馬大大学院の片田敏孝教授が震災前から防災教育に取り組み、「想定にとらわれない」「その時の状況下で最善を尽くす」「自ら率先して避難する」などと教えてきた。小中学生が年下の子や高齢者に呼びかけながら避難し、誘導役も果たしたという。

こうした子どもの防災力に着目し、一般財団法人「防災検定協会」は昨年、小中学生対象の「ジュニア防災検定」を始めた。日頃から災害に備え、災害時には生命を守るため、子どもが自分で考えて行動できる力をつけることが狙いだ。

昨年度は約2千人が受検。東京都新宿区、港区、目黒区、杉並区と神奈川県座間市は授業に検定を採り入れた。今年度は、すでに約3千人が申し込んでいるという。

(太田泉生)